

第2回 第5次亶理町総合発展計画審議会 議事とりまとめ

開催概要

日 時：平成26年11月4日（火） 午後3時00分～午後4時55分

場 所：農村環境改善センター 多目的ホール

委 員：

	役職等	氏名	出欠
1	宮城大学事業構想学部 副学部長 教授	風見 正三	
2	宮城大学食産業学部環境システム学科教授	郷古 雅春	
3	亶理地区行政事務組合消防本部消防長	菊地 英夫	
4	宮城県亶理警察署 代表	千葉 好	
5	亶理町災害防止協議会長	八木 昌征	
6	亶理町婦人防火クラブ連合会長	菅生 和子	欠
7	亶理地区区長会長(兼自主防災会連絡会長、亶理地区まちづくり協議会長)	伊藤 建夫	
8	吉田地区区長会長	岩佐 裕昭	欠
9	荒浜地区区長会長	武者 幸治	
10	逢隈地区区長会長	三品 知之	
11	荒浜地区まちづくり協議会長	鎌田 幸夫	
12	吉田西部地区まちづくり協議会長	小山 信悦	欠
13	吉田東部地区まちづくり協議会長	佐藤 實	
14	逢隈地区まちづくり協議会長	村上 収	
15	亶理町民生委員・児童委員協議会長	横山 敏彦	
16	亶理町老人クラブ連合会長	渡邊 信秋	
17	子ども・子育て支援審議会	志賀 力	
18	わたりっ子を育てる会会長	伊藤 幹代	欠
19	亶理郡医師会長	大友 弘美	欠
20	亶理町食生活改善推進員協議会長	清野 珠美子	
21	亶理町農業委員会会長	青柳 俊一	欠
22	亶理土地改良区理事長	三品 幸徳	
23	みやぎ亶理農業協同組合代表理事組合長	岩佐 國男	
24	みやぎ亶理農業協同組合女性部長	安住 郁子	欠
25	認定農業者協議会会長	片平 洋之	
26	亶理町農産加工推進協議会長	小野ひで子	
27	宮城県漁業協同組合仙南支所亶理運営委員長	菊地 伸悦	
28	宮城県漁業協同組合仙南支所亶理水産加工研究会長	木村 光子	
29	亶理ロータリークラブ 代表	櫻井 隆	
30	亶理ライオンズクラブ 代表	黒崎 敏郎	

	役職等	氏名	出欠
31	(社)あぶくま青年会議所 代表	佐藤 英治	欠
32	亶理山元商工会会長	丸谷 由郎	
33	亶理山元商工会女性部長	丸子キヨ子	
34	亶理山元商工会青年部長	刈谷 文俊	欠
35	亶理町教育委員会委員長	佐藤 正行	
36	亶理町地域婦人団体連絡協議会長	小野 典子	
37	亶理町芸術文化協会会長	大堀 欣七	
38	亶理町PTA連絡協議会長	三品 裕也	欠
39	亶理町スポーツ振興審議会会長	樋口久美子	
40	NPO 法人 セリアの会理事長	セリア・ダンケルマン	欠
41	一般住民	宍戸 法男	
42	一般住民	大久 邦夫	
43	一般住民	門馬恵美子	
44	一般住民	木村 一行	
45	一般住民	齋藤 博志	
46	一般住民	伊藤美和子	
47	一般住民	尾本とも代	
48	一般住民	太細 正志	
49	一般住民	鈴木一江	
50	一般住民	紅林 すゞ子	欠

※全50名中、38名出席。

亶理町総合発展計画審議会条例の第6条2項の規定により会議は成立した。

事務局：

企画財政課	課長	吉田 充彦
	専門官	日下 初夫
	班長	関本 博之
	副班長	南部 浩秀
	副班長	庄司 洋
	主事	猪股 裕二郎
	主事	武山 智哉
	主事	渡部 悟

事務局補助：

国際航業株式会社	増戸 保明
	小山 久美
	清水 里美

配布資料：【次第】

【委員名簿】

(以上、当日配布)

【資料 1】第 5 次亙理町総合発展計画及び国土利用計画策定に関するアンケート調査結果

【資料 2】第 5 次亙理町総合発展計画策定に関する施策実施状況調査結果

【資料 3】町内の復旧・復興の状況について

(以上、事前配布)

議事概要

1. 開会

- 事務局の関本班長が進行した。

2. あいさつ

- 風見会長より、「大変お忙しい中、大勢の方にお集まりいただきありがとうございます。10月30日のクローズアップ現代で宇沢弘文先生の追悼番組に出させていただく機会がありました。経済の豊かさだけが社会の豊かさや人間の豊かさをつくるものではないという考えの方で、自然環境や学校、鉄道、制度といった社会的共通資本を地域の財産としてみんなでつくろうという理念があります。人間の心や本当の豊かさを見極めて、この総合計画の本質を見失わないよう議論していきたいと思っております。今議論していることが100年先に生きてきますので、是非、積極的に自由な議論をしていただきたいと思います。」とあいさつがなかった。

震災という悲しい出来事がありましたが、これからは希望をつくっていかねばなりません。この総合計画が大きな拠点をつくり、様々なプロジェクトを仕掛けていく重要な場でもありますので、みなさんの思いでよい総合計画をつくりたいと思っております。本日はよろしくお願いたします。」とあいさつがあった。

3. 協議事項

- 風見会長により議事が進行された。
- 風見会長から、出席者が50名中38名で亙理町総合発展計画審議会条例の第6条2項の規定により会議が成立すること、また、傍聴人（1人）の出席の旨が伝えられた。

1) アンケートについて

- 【資料 1】に基づき、事務局の猪股主事が「第 5 次亙理町総合計画及び国土利用計画策定に関するアンケート調査結果」について説明を行った。また、資料 1、8 ページの凡例の訂正をした。

2) 達成状況について

- 【資料 2】に基づき、事務局の庄司副班長が「第 5 次亘理町総合発展計画策定に関する施策実施状況調査結果」について説明を行った。

3) 復旧復興について

- 【資料 3】に基づき、事務局の南部副班長が復旧復興について説明を行った。

風見会長：総括していきますと、アンケートの 21 ページでは、特に年齢の構造が「すり鉢型」となっています、長く住まわれている方が暮らしやすいと回答されています。全体的には定住意識が強くなっておりませんが、公共交通機関に対する不満があるように見受けられます。達成度状況の最後のグラフを見ていただくと、上下水道などの生活機関への満足度が高く、ソフト施策と交通に対する満足度が低いのが目立っていたと思います。また、復興計画と総合計画がどう生きていくかが重要なポイントになると思います。まち全体の観光拠点や生活拠点をどうつくるかという課題を念頭に、定住意識、達成状況、復興計画の 3 点について議論していただきたいと思います。

小野委員：吉田の海岸沿いにメガソーラーの設置の計画が打ち出されており、期待していたところですが、新聞等によると、どうもこの先実現できないのではないのではないかという話も聞きました。亘理町としては、どう考えているのでしょうか。

事務局南部：吉田東部地区の案件については、もともと大部分が畑で耕作放棄地になるおそれがあったため、復興計画の中でメガソーラーという位置づけにさせていただきました。数社、参入したいという会社がありましたが、なかなか達成できずにいました。しかし昨年度、発電したいという民間会社があり、平成 25 年度で申請をしております。東北電力とのアクセスも終わっています。基本的には実現の見込みは高いです。これだけの農地転用をするわけですので、事業リスクはまだありますが、手続きは終わっており、あとは農地転用の関係者との協議を進めているという状況でございます。

風見会長：確かに、様々なところで撤退していますが、亘理町は実現に向かっていくようです。メガソーラーは、将来的に農地に戻す戦略をどうつくるかが大切です。農地に陰ができないよう、透明のメガソーラーの開発もされています。どういうメガソーラー施設にするかを含めて、注目していく内容だと思います。

木村委員：平成 27 年度に計画されている役場や福祉センターは、仮設住宅がある場所が予定地となっているようです。現在、予定地の仮設住宅につきましては約 800 人入っておりますが、どうしても経済的に復興住宅に入れない方も見受けられます。そのような方は、現在の仮設住宅の場所を動けないと思います。その移転費用の計画はないようですが、仮設をずっ

と残しておくのか、1箇所を集約するのかの計画が具体化されておられません。いかがなものなのでしょうか。

事務局南部：仮設住宅は1年ずつ延長されており、現在は平成28年3月まで延長しています。一人ひとりの意向調査を行ない、現在、残る方の数は把握しております。これからマンツーマンで説明させていただき、国、町で最適な再建方法を模索していく予定です。

事務局吉田：町の考えとしては、現在の仮設住宅に居住されている方のアンケート結果を優先的に考慮しながら進めていきたいと考えております。

風見会長：生活再建対策を含め、難しい問題ですね。行政には引き続き、具体化を進めていただきたいと思います。

大久委員：「やや愛着を感じていない」、「愛着を感じていない」、「やや暮らしにくい」、「暮らしにくい」などの回答理由はわかるのでしょうか。暮らしにくい理由を改善していけば良いのではないのでしょうか。

事務局猪股：4つの選択肢による回答となっております、回答理由のデータはありません。

風見会長：自由記述やクロス推計などから調査することも重要だと思います。

志賀委員：一番気になるのは、調査対象となっていない人たちの意見がわからないということです。例えば、小さい子供や老人ホームに入っている人は回答していません。また、属性が偏っていることも念頭に入れて施策を考えていくべきだと思います。

また、公共交通機関について、さざんか号は町内だけしか運行しておりません。岩沼駅に直通で行ける公共交通機関があってもよいのではないかと思います。これによって、交通弱者へ良い影響があると思います。

風見会長：声を出せなかった方々の状況をご存知の方は、今後もお聞かせ下さい。また、新しい連携をしかけていくなど、町内で完結せずに公共交通機関を充実するのも良いアイデアだと思います。

樋口委員：長瀨の長徳寺で被災地再建のレクリエーションを行った際に、バスもさざんか号も利便性が悪く帰れないという意見を聞きました。スマートインターチェンジ（以下「スマート I.C.」）まで自転車で行くという話も聞きましたが、スマート I.C.とはどういうものなのでしょうか。トイレだけの休憩なのでしょうか、買い物ができる場所なのでしょうか。

事務局庄司：スマート I.C.は、トイレ休憩ができるパーキングに接続し、ETC を搭載した車両用の I.C.で高速道路の施設です。買い物などができる施設ではありません。

事務局吉田：補足で説明させていただきますと、当初はスマート I.C.の近くに道の駅構想があったため、そのことが噂になっているのではないかと思います。スマート I.C.ができることによって、流入人口の増加が期待できます。

ただし、道の駅ができてしまうと、そこでお客さんが用事を済ませてしまい、流入人口が町内にまでは入ってこないことが懸念されます。道の駅については、スマート IC が開通した後に再検討したいと考えており、現段階では保留となっています。

丸谷委員：近くに鳥の海温泉ができ、活況しつつあります。I.C.については、寒河江では街中に人が入っていない状況ですが、道路で誘導していけば流入人口が増えるのではないのでしょうか。皆さんの意見をふまえ町と協議して方向性を決めていきたいと思えます。バスについては、岩沼までのルートを検討されている状況です。

風見会長：I.C.をつくるだけでなく、どのように町に来ていただくかという観光戦略が重要だと思います。スマート I.C.をどう使いこなしていくかといった検討も必要です。

門馬委員：子どもが仙台まで通っており、風が強い日などは心配しておりましたので、さざんか号が岩沼まで直通になってもらえればとても嬉しいです。先日、交通事故もありましたが、亘理に来ると暗い感じがするので、街灯をつけていただければ、安全で明るいまちになると思えます。また、逢隈小学校の子ども達のあいさつがとても良いと聞いています。子ども達を見習って、あいさつ運動を推進した方が良いと思えます。

風見会長：街路灯などは現状を把握して検討していただきたいと思えます。あいさつはとても大切ですね。観光の面でも、ホスピタリティが上がるだけで町の印象が良くなるでしょう。

事務局吉田：さざんか号については一律 200 円でしたが、震災後は復興交付金により無償としています。基本的には、仮設住宅や病院の停留所を中心に暫定路線で運行しております。この事業は平成 27 年度までの事業となっておりますが、継続するかどうかは検討中です。

JR 常磐線が平成 29 年 4 月に全線開通の予定となっています。現在、常磐線の最終は 23 時となっていますが、震災前は 24 時台の電車がありました。バスのアンケート調査の結果、最終の 24 時台を JR に復活してほしいという要望が多く、JR としては全線開通してから検討するそうです。さざんか号については、岩沼駅までの直行便を調整中です。

街路灯についてですが、LED への切り替え作業をしているところです。今回の審議会では街路灯について要望があったこともお伝えしたいと思います。

あいさつについてですが、各小中学校や町の職員でもあいさつ運動の推進をしています。

風見会長：子ども達は大人を見ておりますので、大人のあいさつ運動も大切ですね。交通については、JR だけに頼らずコミュニティバスなど、住民の要求にあった交通網をつくっていく方が良いと思えます。交通や子育て、高齢者福祉について関連したご意見はありますか。

鎌田委員：公共交通機関の不便性について議論がありましたが、運行経路だけでなく、土日はバスが運休で中心部の行事があっても行きにくいことは問題だと思います。この問題を解決できるかどうか、地区の復興の大きな要素になるのではないのでしょうか。

風見会長：そういった、きめ細かな対策が大切ですね。バスが不便で乗らなくなると、本数が減りさらに乗らなくなるといったような連鎖がありますように、ただ乗ってくれというのではなく、全体の連鎖的な施策に乗り出さないといけないと思います。

斎藤委員：津波を受けて凹んだ道路が放置されたままで大変通りづらいです。なぜ放置されているのでしょうか。

事務局吉田：都市建設課に伝え、確認したいと思います。

風見会長：道路の状況については、確認していただきたいと思います。総合計画として見れば、どこの道路を優先的に使用していくのか、財政面から見て道路を作りすぎていないかなど、道路や生活のことをトータルで考えていかなければならないと思います。
医療福祉についてのご意見はありますか。

志賀委員：待機児童の問題がでてきていると思います。また、老人ホームなど介護については先進的に取り組んできましたが、待機者が大勢いるという状況です。町だけではできないとは思いますが、町としてお金をかけずに何かできることはないのでしょうか。そのことが先駆けとなり、県や国に広がっていけばよいと思います。本日は福祉関係の担当者は来ていないようですが、これらの意見も吸い上げて行ってほしいです。

風見会長：待機児童や高齢者関係について、事務局でも担当課と状況をまとめていただけますか。特に、満足度が低い項目について、状況を捉えてどういう方向性をとるべきなのかを踏まえて議論できたら良いと思います。今回の議論で子育て、観光、交通、高齢者などの問題が共通意識としてたてたのではないのでしょうか。委員のみなさんには是非アイデアを出して欲しいと思います。

尾本委員：亘理駅で降りても、特産物も売っていなければ、喫茶店などのゆっくりできる場所もありません。健康センターがありましたが、流出してしまいました。特に、仮設の方の運動不足も問題視されており、やっと体操の活動がはじまったと聞いております。コミュニティーセンターなどの施設を使いやすくなるようにし、健康増進に活用できたらいいと思います。

風見会長：地域の人が楽しく過ごせることが重要です。地域の方からの忌憚のない意見をいただければと思います。

黒崎委員：せっかくの機会ですので、意見を述べさせていただきます。アンケート

についてですが、年齢が10代、20代、30代の割合が少ないようにお見受けしました。町の長期的な計画をたてるにあたって、若い方の意見があまり反映されていないアンケートになってしまっているのではないかと思います。別の機会にでも、若い人から意見を聞く機会を設けていただければ良いと思います。

また、亘理町に行ってみたいと思ってもらえて、町内で一日過ごすことができるように、様々な施設が連携する観光地になったら良いです。

医療については、救急サービスを向上させていく必要があると思います。

事務局吉田：各団体の説明会を予定していますので、そこで若い人から意見を聞けるように調整したいと思います。

黒崎委員：とりわけ震災発生後、他の市町村よりも悪い教育環境であると思います。若い時の町の良い思い出やイメージがあるかないかで、将来的な町への愛着に繋がると思います。子ども達のための都市計画も考えていただきたいと思います。

事務局吉田：貴重なご意見、ありがとうございます。

佐藤(正)委員：年1回の小中高での亘理未来づくり発表会があります。教育委員会が冊子にしてまとめているのでご覧いただければ、将来を担う子ども達がどう考えているのかがわかると思います。

挨拶については、マナーアップ運動で取り組んでいます。子ども達だけでなく、地域の人達にも広まれば良いと思っています。

風見会長：子ども達もまちづくりに参加することは大切です。加美町のまちづくりワールドカフェのようなものやってみてはどうでしょうか。

道の駅については、通過点とまらない呼び込むような全体のまちづくりのプランが必要だと思います。

医療についても、救急車の搬送距離などによって、実感としての暮らしやすさがデータとしてわかると思います。今回のご意見は、事務局の方で宿題として捉えていただきたいと思います。

一人ひとりご意見を伺えなくて恐縮ですが、とてもよい議論ができたと思います。ありがとうございます。是非本日の議論を持ち帰って頂いて、次につなげていただきたいと思います。

4) その他

- 関本班長が、第3回開催は12月19日(金)午前10:00からを予定しており、通知等は後日郵送にて送付する旨を伝えた。
- ここで風見会長が議長の任を降り、進行が事務局に移行された。

4. 閉会

- 伊藤副会長より「皆様、今日は様々な角度からのご質問やご意見を賜りまして、ありがとうございました。こういった皆様のご意見を第5次計画に反映できるよう、まとめていきたいと思っております。会長からもお話がありましたが、満足度の特に低いものについて事務局で調べて、次回にお知らせいただきたいと思います。本日はお疲れ様でした。」と閉会のあいさつがあった。（午後4時55分閉会）

